

開業1周年を経過いたしました

2011年3月に、糖尿病専門クリニックと地域における内科一般診療の提供を目的として、南一色セントラル内科が開院して1年が経過しました。これを機に糖尿病、その他医療関係の情報をこの紙面で発信していきたいと思っています。



糖尿病ってどんな病気？

糖尿病は、血糖値(血液中のブドウ糖の濃度)が正常範囲を逸脱して高くなる病気です。血糖が非常に高くなると尿がたくさん出る(多尿)、のどが渇く(口渇)、水分をたくさんとる(多飲)、食べても食べても痩せてゆく(体重減少)というような症状が起こります。しかし、このような症状がでてくるほどの高血糖でなくとも、ある程度の血糖が高い状態が長い間続くと糖尿病の合併症が出現します。糖尿病合併症には、細小血管合併症といって、目と腎臓と神経にあらわれるものと、大血管合併症といって狭心症、心筋梗塞、脳梗塞などとしてあらわれる動脈硬化があります。合併症は、血糖が高い状態が続いていると全く症状がない中で進行することがあります。ゆえに、糖尿病では定期通院による血糖の状態のチェックが欠かせません。高血糖はインスリンをはじめとする薬物療法で元に戻すことはできても、一旦おこった合併症はもとに戻すことはできません。現在の糖尿病の治療の目標はこれらの合併症を予防すること、進行させないことにあります。

ヘモグロビン A1c (HbA1c)の表記が変わる

HbA1c は過去 1~3 か月の血糖の状態を反映する糖尿病の血糖コントロールの指標となる数字です。2012年4月よりその表記が国際標準の NSGP 値になります。これは、今までの JDS 値に比べると、0.4%高く出ます。

すなわち、

$$\text{HbA1c(NGSP)} = \text{HbA1c(JDS)} + 0.4 \text{ (\%)}$$

(*詳しくは HbA1c(JDS)4.9%以下で+0.3、HbA1c(JDS)5.0~9.9% で +0.4、HbA1c(JDS)10.0%以上で+0.5)

従って、今まで HbA1c(JDS)6.5%以下を目指しましょう、というのが HbA1c(NGSP) 6.9%以下を目指しましょう、ということになります。なお、当面は NSGP 値、JDS 値とも検査結果に打ち出されます。HbA1c の表記の変更については別紙パンフレットも参考にしてください。

新しい糖尿病の薬、インクレチン関連薬

一昨年に発売が開始された新しい 2 型糖尿病の薬剤で、インクレチン関連薬というものがあります。これらは小腸から出る GLP-1 というインスリン分泌を増幅させるホルモンの作用を強める薬です。内服薬の DPP-4 阻害剤は GLP-1 の血中での分解を遅らせる薬で、注射薬のリラグルチドは血中での分解をうけにくい GLP-1 類似の薬剤です。これらの薬剤は血糖低下作用がありますが、単独では低血糖を起こすことはありません。また、体重を増やすことはなく、とくにリラグルチドは糖尿病薬として唯一体重減少作用があります。

編集後記

今年の冬は寒く、どうしても運動量も少なくなり、冬は HbA1c も少し上がった方もおられるかと思えます。少しずつ暖かくなってきたのでまたマイペースで運動をしてください。次は夏号の発刊を予定しています。